

第605回番組審議会報告

2016年2月2日開催

■出席委員

櫻井美幸委員長 佐藤友美子副委員長 上田理恵子委員 神谷徹委員 小菅洋人委員
佐藤卓己委員（書面） 津村記久子委員（書面） 中野健二郎委員（書面） 東野博昭委員 細見良行委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 西田取締役 西村取締役
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長
磯澤報道局長 坪井ディレクター

◆審議事項

テレビ番組「映像'15 家族づくり～子どもたちと里親の一年」

(2015年3月29日（日）24:50～25:50 放送)

(2016年1月22日（金）10:05～11:00 再放送)

【各委員の主な意見は次の通り】

- *主張とかメッセージなどを押しつけてくるところがなく、事実を淡々と根気よく提示していた。どう受け取るかは全部見る側に委ねられている感じがして好感が持てた。
- *“ぼかし”なしで映し出された、あの子どもたちの表情こそが、言葉ではない、いろんなものを表現していたと思う。
- *ともすれば「お涙頂戴もの」になりやすいテーマだが、里親にスポットを当てることで、「不幸」だけでなく「幸福」もみてとれる構成になっている。「家族」とは血のつながりがなくとも信じ合い支え合っていく者同士なのだという考え方は今日特に重要なメッセージだ。

- *見終わったとき、「わが両親への感謝」で泣いてしまっていた。視聴料を払いたくなる番組だったし、何よりも多くの人に「これええで。見なさい」と推薦したくなかった。
- *すばらしい労作で感動した。あえて言えば、取材した子どもたちは学校ではどうなんだろう、周辺地域とのかかわりはどうなんだろう、そういった社会的な広がりがあり、里親夫婦だけが背負っているという印象を受けた。
- *“ぼかし”を入れないことにあらわれているように、里親夫婦がさまざまな事情をもつ子どもたちを絶対的に信頼していることがうかがえた。そういう意味で多くの親にみてもらいたいし、みたほうが良いと思った。
- *終始落ち着いていてぶれない里親ご夫婦の語り口は、経験に裏打ちされた説得力があり、印象的だった。感情的にも語れる主題だと思うが、お二人の言葉が非常に論理的で、みていて安心感があつた。
- *感銘を受けた。カメラの前で子どもたちが心の内をさらけ出すところなど、ディレクターや取材スタッフとのコミュニケーションが完全にできていたからこそ可能になったのだろう。
- *説明を極力おさえ、その分、ナレーションの言葉一つひとつに言いたいことが凝縮されていて、多くを語っているわけではないが、ずっと頭に入ってきた。
- *里親夫妻の子どもたちへの愛情と情熱には、使命感もうかがえ、「他人を見る余裕などない」今の日本社会に挑戦されているようでもあり、その姿がまぶしくみえた。
- *大学生の息子と一緒に番組を見た。見終わったあと、二人で感想を述べ合った。最近親子で見たい番組が少ないなか、親子で会話ができる貴重な番組だった。